



大の親日家。「十数年前に比べれば、日本は変わってきているかも知れませんが、伝統は残り続けていると感じています。日本の個展のオープニングで、お客さんが着物を着てきてくださるのがとても嬉しいです。」

しますよね。フランスでは木がそのまま、自然に生えているままです。かつては植えたのですが、自然のままにあるといった感じ。木の色も違いますし、植え方なども違いますね。

V 8月に軽井沢で行われる個展のテーマはなんでしょうか。

ザッキ テーマは木と花のブーケになりますが、「ジャポニザン」といって、日本から影響を受けた新しい技法を取り入れています。絵の背景は、墨の濃淡のように流動的に、ある部分は透明で、ある部分は不透明に色を置いています。そして「禅」からの影響で、余白を大きく取りました。日本では「沈黙」が言葉でもありません。フランス人はおしゃべり過ぎますが、静けさも言葉であり、静けさの中で理解し合えること、熟慮できることがある。それを感じたことが私にとっては大きな変化でした。

V そうですね。日本では余白が熟考の場でもありますし、大切にされています。とても日本的なこともありません。

## 自由な表現とオリジナリティ ディクタチュールと エクリチュール

V フランスの芸術世界の現状はどうでしょうか。

ザッキ 文化省はコンテンポラリー絵画を大切にしている傾向がありますが、芸術は自由に表現させることが第一なので、括弧を持つべきではないと思っています。ピカソやシャガール、ビュッフェらはみんな一緒に創作していました。お互いに批判し合うことも、争いもなかった。抽象画と具象画といった争いも、昔はそれほどなかったのです。

V ル・サロンの名誉会長をなさっていますが、フランスの文化政策について助言をすることもありますか。

ザッキ もちろん、文化大臣に助言する時もあります。芸術は型にはめず、もっと自由に表現することが大事だと思っています。いくつかのサロンでは dictature ディクタチュール



アトリエの一角にずらりと並べられたメダルや楯。40歳でサロン教育功労賞を受けて以来、数々の賞を受賞してきた。2001年の国家功労勲章、2007年のレジオンドヌール勲章を受けている。

(自分の思いを貫き表現すること)のない芸術を展示していることがあり残念ですね。若者が描きたがっているのに、そうではない芸術を勧める傾向もあります。絵画は個人の中から出てくるもので、各人が自分の écriture エクリチュール (筆跡) をもっていません。ピカソも、シャガール、ビュッフェも自分の écriture を持っていて、彼らの絵をみたら、すぐ誰の作品かわかりますよね。このような自分の個性を持つことが難しいのです。

V フランスの若い芸術家たちにアドバイスをする機会も多いのですね。日本では杉野学園ドレスメーカーで客員教授として指導もされていましたが、日本がもっと芸術を愛する国になるにはどうしたらよいでしょうか。

ザッキ 日本はもうすでに芸術を大切にしている国になっていますよ。日本で美術館の展示があると、それを見ようと行列が

できますが、芸術を愛している国民の表れだと思えます。日本は千年以上の芸術の歴史を持つ国ですから、日本で個展を開くと、お客さんが作品の価格だけではない別の側面を見出しにくれていると感じています。職人を大切にしている国ですから、日本の方に作品を見て頂けるのは嬉しいですね。

V 軽井沢がもっと芸術的な町になるにはどうしたらよいでしょうか。

ザッキ 前回の滞在が短くて、よく町を見られませんでした。その質問の答えは、この夏じっくり町を見てからお答えしましょう。

V はい、ぜひお願い致します。夏の個展、期待しています。本日は素晴らしいお話をありがとうございました。

**Jean-Marie ZACCHI**  
ジャン＝マリー・ザッキ  
1944年フランス・コルシカ島生まれ。345年の歴史を持つフランスの国際公募展「ル・サロン」に19歳で出展。同年よりル・サロンの審査委員会に加わる。92年にフランス海軍公認画家に任命。ル・サロン最高賞受賞後、48歳でル・サロン名誉会長就任。2007年、パリ・パレ・ロワイヤルにてレジオン・ドヌール勲章シュバリエ芸術勲章を受ける。大の親日家でほぼ毎年来日。日本国際美術家協会名誉顧問も務めている。8/4・5にギャラリー桜の木へ来店予定。